

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

II. メタアナリシス

11. 消化管、肝胆膵の疾患

文献

Hoshino N, Nishizaki D, Hida K, et al. Rikkunshito for upper gastrointestinal symptoms: A systematic review and meta-analysis. *Complementary Therapies in Medicine* 2019; 42: 255-63.

1. 目的

上部消化管症状に対する六君子湯の有効性及び安全性の評価

2. データソース

Ovid MEDLINE、Scopus、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) 及び ICHUSHI : 2018 年 8 月 30 日に文献検索を実施

3. 研究の選択

上部消化管症状の治療のための六君子湯と代替医療とを比較したランダム化比較試験を言語による制限を設けずに検索した。

4. データの抽出

同定した論文のタイトルと要約をレビュー著者 2 名が独立してスクリーニングし、その後、適格と思われる論文の全文を評価した。著者間の意見に矛盾があれば話し合いにより解決した。著者名、試験デザイン、試験期間、セッティング、被験者特性などを確認して重複する論文を特定し、除外した。選択した試験の参考文献リストを確認し、さらに関連する試験を特定した。

5. 主な結果

データベースの文献検索により 1096 件の論文が同定された。重複を確認後、828 件のタイトル及び要約をスクリーニングし、31 件の全文を確認した結果、23 件が同定され、そのうち 1 件には 2 つの試験が含まれていた。したがって、24 試験（被験者合計 2175 名）をこのレビューに含めた。六君子湯は他の治療法と比較して、胃腸症状評価尺度 (Gastrointestinal Symptom Rating Scale) を用いて評価した上部消化管症状を有意に緩和しなかったが (標準化平均差: -0.07 、95%信頼区間 [CI]: $-0.31 \sim 0.17$ 、 $P=0.59$)、5 段階評価を用いて評価した場合は症状を有意に緩和した (平均差: -0.38 、95%CI: $-0.55 \sim -0.21$ 、 $P<0.001$)。対象となった試験のほとんどは、全体的なバイアスリスクが高いか不明確であった。

6. 結論

六君子湯が上部消化管症状の緩和に有効であるかは依然として不明である。さらに質の高い試験を実施する必要がある。

7. 漢方的考察

なし

8. 論文中の安全性評価

薬剤に関連する重篤な有害事象は報告されなかった。

9. Abstractor のコメント

この分析は六君子湯の消化器症状に対する効果について検討した研究を分析している。24 の研究のうち、GSRs を用いた評価に関しては、6 つの研究で評価して、「優位差がない」と結論づけている。一方で、5-point scale に関しては、5 つの研究で評価して、「優位差がある」と結論づけている。

また、著者らも述べているように、六君子湯を使用した病態にバラつきがあり、投与期間もバラつきがあるため、この解析結果の解釈には注意が必要である。

10. Abstractor and date

永田豊 2024.11.30